

# 子どもの心の安定を求めて

## —親子のコミュニケーションづくり—

### プロフィール

#### 地域

県の中西部に位置し、丘陵・山に囲まれ自然環境に恵まれた地域である。米・梨・トマト栽培や畜産・林業等が盛んで、三世代で生活している家庭が多い。学校教育にとっても協力的である。

#### 学校

明治6年創立。児童数約44名、学級数6学級、教職員数13名。「笑顔あふれる学校」「オープンな学校」をめざす姿とし、地域の自然、人、歴史、文化を生かした様々な教育活動を実践している。

#### PTA

家庭数31。総務・厚生・教成部、人権・同和教育推進部、学年・広報部の三部と運営委員会で構成し、ほぼ全員が役員。会員の協力体制がすばらしく、地域に支えられながら活発に活動している。

## 1 はじめに

毎日、仕事や育児・家事に追われ、「忙しい、忙しい。」とゆったりとした気持ちを持つことの大切さを忘れかけている私たちである。また、我が子への関わり方や接し方に困難を抱えている会員もあった。

大切な我が子としっかり向き合い、子どもの心が安定するような関係作りや親子のコミュニケーション作りをしていくために、私たちができることは？と考えていた時、西宮市在住のNさんの講演を聞いた。『10秒の愛』との出会いは、「忙しいけど、後でお話聞くと、10秒だっこ」「怒りたいのをぐっと我慢の10秒」「早くしなさい！の前にじっと待つ10秒」など、具体的に分かりやすい。これなら、みんながすぐに実践に移せる取組だと考え、十九年度からPTA活動の重点項目として取り上げて、会員全員の共通理解を図りながら活動を進めてきた。

## 2 活動の内容

### (1) 『10秒の愛』キャンペーン

①趣旨の共通理解のために

具体的にどんなことをしたらいいのか、そうすることがどんな意味を持つのかについて、会員に理解してもらおうため、PTA総会での説明、シンボルマークの考案、パンフレットの作成、Nさん出典の事例の紹介や小冊子『「優しさ」というビタミン愛』の輪読などを行った。



“10秒の愛”キャンペーンのシンボルマーク

「あなたの10秒で、きっと子どもは笑顔になります」を合言葉に、毎日、ささやかな優しさを繰り返し積み重ねていくことで、子どもたちの心に、もらった優しさや大切にされた思いが貯金され、笑顔と元気につながることを願って活動を継続している。

②取組の実際と意識を継続していくための手だて  
 ・学級懇談のとき、「我が家の10秒の使い方」について情報交換をする。

・実践をもとに一行詩を作り、校内に掲示する。  
 ・今夜から「後で。」という前 我が子抱き抱きしめて 言葉をかけて 愛かけて

「早くして。」 言いたい気持ちに ブレーキだ  
 ありがとぎゅっ ぐめんよぎゅっ 大すき



手洗い場に掲示している一行詩

「たかが10秒、されど10秒」初めてこの言葉を聞いたとき、当たり前のことなのになんで私は今までできなかったのだろうか？ と考えさせられました。でも、自分自身できていなかったから、素直に感動し、「10秒ならできる」と思いました。まあ、たまには待てないこともあるけど、なんとなく今は10秒待てる方が多くなったと思います。子どもに呼ばれたらすぐに行くようにしているから、きっと子どもも呼んだら来てくれると思うと信じています。ここまで大きくしてくれたことに感謝してるし、たくさんの人に知ってもらいたいと思い、職場の人（子育て中の人）にも話

ぎゅっ  
 「つかれたなあー。」肩にあったか小さな手  
 子どもからもらう  
 10秒の愛  
 ・実践エピソードの募集をし、学校だよりへ掲載する。

しました。反応はこれからだけど、きつとわかってくれると思います。『10秒やってる?』と自分にもそして周りの人にも声をかけていきたいです。

『10秒の愛』キャンペーンと考え、思っているても、なかなか簡単にはいかないなあといつも思います。熱心に思うあまりに叱ってしまい、その時に反省し、「あやまる」ということがあります。落ち込むこともありますが、自分の中でひとまず考えてみようという心留め、気付きを増やすようにも心がけているところです。日々健康で元気に話ができる子どもであってと願うのも10秒の愛キャンペーンにつながるのかなとも思っています。

・ 地域に取組を知ってもらうため、また、あたたかい言葉かけなどの協力をお願いするために、ポスターを作成し、公民館や商店など、目につくところに掲示する。

・ 会報誌に、シンボルマークを毎回掲載する。

・ 学校・PTA・教育委員会共催で、三者で学校が抱えている教育課題を互いの立場で協議し理解しあう教育懇談会が、年一回開催される。昨年度・本年度は『10秒の愛』をテーマに取り上げ、ミニ講演会、ミニシンポジウム、分散会を行った。『10秒の愛』に取り組んできての成果、我が子の成長、良くなってきたこと、親として思うこと、困っていることなどを話し合っ



教育懇談会でのミニシンポジウム



教育懇談会、分散会で実践交流

た。学校の方からも、保護者の変容やそれが子どもに影響し心や態度の安定につながってきていると思われること、また、学校職員として『10秒の愛』の実践例などを話していただいた。

### 《会員の声より》

・ ミニミニシンポジウムや分散会でみなさんの意見や体験を聞いて、自分には「子どもの気持ちに共感する」ということが欠けているのではないかと反省しました。「えらいだろうな。」とは思っていても、つい、「がんばれ、がんばれ。」と励ますばかりになっているような気がしました。もう少し、子どもの気持ちに寄り添っていけるようになりたいと思います

た。

・昨年、保育園のときにこのことを知りました。そのときの思いと今回の懇談会での思いは、まったく大きく変わりました。我が子も成長したせいだと思えます。確かに、現実的には子どもに対して余裕がないのが本音だと思います。しかし、10秒の愛」という言葉を知ったことにより、何かしら自分自身も気持ちの中で変わってくることもあるのかなと思います。10秒の愛、この言葉って、案外と心地よい。私の、10秒の愛は「おこる」ではなく「しかる」気持ちで接していきたいです。

## (2) 輪読・親子読書

二学期に一冊の本を学年でまわしながら親子で読む輪読と、秋の夜長に親子で選んだ本をゆっくり読んで、楽しいひとときを過ごそうという、ファミリー読書タイムを実施している。

### ① 輪読

人権・同和教育推進部が中心となり、人権問題をテーマにした絵本を各学年一冊選定し、九月から一家庭一週間ずつ本を持ち帰って読み聞かせをした。感想や親子で話し合ったことを感想用紙に書いてから、担任の先生を介して、次の家庭にバトンタッチするというやり方で、全ての子の家庭を回すものである。兄弟姉妹が複数のところは、読む本が複数になる。集まった感想は人権・同和教育推進部だより「ふれあい」に載せて紹介している。



ファミリー読書の感想

〈本年度の輪読の本〉

一年「てんとてん」

四年「見とってな！ けんた

二年「おとがするしんごうき」

五年「おばあちゃんからのおく

りもの」

三年「ええぞ、カルロス」

六年「雪とパイナップル」

### ② ファミリー読書

学校の「以西読書フェスティバル」の催しの一環として、ファミリー読書に取り組む。子どもたち一人一人が読みたい本を家族と一緒に読んで、読み聞かせをしても良かったりしている。感想や子どもへのメッセージを書いて、全員分を学校の廊下に掲示している。(写真④)

## 《感想・子どもへのメッセージ》

- ・ シュバイツァーのことをお父さんが初めて知ったのは小学5年生のときでした。〇〇は、2年生でもう詳しく知ったんだね。これからも伝記をたくさん読んで、その人たちからすごいところをたくさん学ぼうね。
- ・ 本が好きでたくさん読んでいるね。今は読み聞かせしないので、久しぶりによい親子の読書タイムになりました。
- ・ 絵本でなかったので、いろんな場面を想像しながら読みました。久しぶりに1冊の本と一緒に読みました。
- ・ あやちゃんの家族はマリと出会って本当によかったね。犬のマリに見つけてもらったおじいちゃんとおやちゃん。マリの力はすごいなあと本当に感動しました。
- ・ 日頃一緒に本を読んでいないので、大事な一時でした。忙しい中、ゆったりとした気持ちになれました。

## 3 活動の成果

・ 輪読・ファミリー読書では、読み聞かせを通して、親子の会話が増えたり、改めて読書の良さに気付き、テレビの視聴が読書に向いてきた家庭もある。また、少しずつ

であるが父親の協力が得られるようになった。  
我が子への接し方を意識し、実践していく中で、子どもがよく話すようになったり穏やかになったりしてきた。親自身も、気持ちが楽になってきていると思われる。  
子どもたちの心の安定が、学校での楽しい生活や学習の落ち着きや充実につながり、自信や前向きな態度を持つようになってきた。

・ 親子のコミュニケーションの大切さに気づき、実践を重ねていく中で、その効果や成果が我が子の姿に表れてきているが、PTA活動への、意識や持ち方も少しずつ変わってきたように感じる。例えば、昨年度、給食試食会で「かむことの大切さ」について学習し、家での献立がやわらかいものばかりになってはいないかを見直し、保護者で「かみかみクッキング」の調理実習を実施した。本年度は、子どもにもかむことに意識を持たせよう、親子でクッキングを楽しもう、また、家庭での実践につなげていこうと、「親子かみかみクッキング」を実施した。また、学年親子会も、イカダ作り、キャンプ、宿泊雪遊びなどダイナミックな、そして体験型の活動が多く、父親の参加や協力が欠かせなくなっている。

・ 会員の協力体制、チームワークの向上、相談しあえる仲間関係づくりができ、家庭の教育力のアップにつながっている。

・ 本PTAの「10秒の愛」キャンペーンをきっかけに、町教育委員会が町全体の取組に広げ、家庭や地域で子どもとの絆づくり

の推進を図っている。「10秒の愛」でつながる・広がる



町全体への広がりを見せている「10秒の愛」



親子かみかみクッキング

『ことうらの絆』をキャッチフレーズに、提唱者である仲島正教さんを迎えて、シンポジウムや講演会を実施したり、諸会合の場で話題に出したりして、町内各保育園、小学校、中学校へと取組の輪が広がっている。

## 4 やすくじ

小規模校のよさを生かし、会員の意識が継続するように、会員一人一人の声を大切にし、声をかけ合いながら、自分たちで作り上げていく活動、全員で取り組んでいく活動を展開してきた。

今後も、親子のコミュニケーション、家族のコミュニケーションを大切にしていきたい。そして、学校や地域と密接なつながりを持ちながら、互いに絆を深め、「家庭と学校と地域」、それぞれの立場から力を合わせて、子どもたちの心身ともに健やかな成長を願って、活動を推進していきたい。

## 展望

親子関係の重要性をしっかりと押さえ、そこから積み上げてきている活動である。「10秒の愛でつながる・広がる『ことうらの絆』」をキャッチフレーズに学校から町全体の取組に広げている。「親子かみかみクッキング」やイカダ作り、キャンプ、宿泊雪遊びなど親子で活動したり、ダイナミックで体験型の活動を取り入れたりしており、父親の参加や協力も多くなっている。親の10秒のささやかな優しさが原点となる心温まる実践である。